

Week of August 17, 2025 - Yet Not I　　Small Group Lesson 32

知り合う

あなたが「素晴らしいリーダー」や「偉大なアーティスト」だと思っていた人について、後からその人が実は困難な過去を抱えていたり、人知れぬ苦闘をしていたことを知った、という経験はありますか？

その事実を知ったことで、その人に対するあなたの見方（視点）はどのように変わりましたか？

聖句　コリントの信徒への手紙一 15:1-11（聖書協会共同訳）

声に出して読んでください：

1 きょうだいたち、私はここでもう一度、あなたがたに福音を知らせます。私があなたがたに告げ知らせ、あなたがたが受け入れ、よりどころとし、2 これによって救われる福音を、どんな言葉で告げたかを知らせます。もっとも、あなたがたが無駄に信じたのではなく、今もしっかりと覚えていればの話ですが。3 最も大切なこととして私があなたがたに伝えたのは、私も受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおり私たちの罪のために死んだこと、4 葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、5 ケファに現れ、それから十二人に現れたことです。6 その後、五百人以上のきょうだいたちに同時に現れました。そのうちの何人かはすでに眠りに就きましたが、大部分は今でも生きています。7 次いで、キリストはヤコブに現れ、それからすべての使徒に現れ、8 そして最後に、月足らずで生まれたような私にまで現れました。9 私は、神の教会を迫害したのですから、使徒たちの中では最も小さな者であり、使徒と呼ばれる値打ちのない者です。10 神の恵みによって、今の私があるのです。そして、私に与えられた神の恵みは無駄にならず、私は他の使徒たちの誰よりも多く働きました。しかし、働いたのは、私ではなく、私と共にある神の恵みなのです。11 だから、私にしても彼らにしても、このように宣べ伝えているのであり、あなたがたはこのように信じたのです。

簡潔に内容をもう一度確認してください。どのような励ましや挑戦、慰めなどを与えられますか?

学び

今日の聖書箇所に基づいて、次の質問を一緒に考えましょう。

1. 3-4節で、パウロは福音を「最も大切なこと」だと語っています。その中で、パウロが挙げている「聖書に書いてあるとおりの」、キリストに関する3つの核となる歴史的な事実とは何でしょうか？

2. 5-8節で、パウロは復活したイエスの目撃者を何人か挙げています。これらの目撃者の中には「今も生きている」者もいるとパウロが述べているのはなぜ重要なのでしょうか。これはパウロのメッセージの権威と真実性にどのような付加価値をもたらすのでしょうか。

3. 9-10節で、パウロは自分自身を「使徒の中で最も小さな者」「値打ちのない者」と呼んでいます。彼はなぜこのように謙虚に自己評価しているのでしょうか。そして、今の自分を形作っている唯一のものは何でしょうか。あなたにも同じことが言えますか。

4. パウロは「私は他の使徒たちの誰よりも多く働きました。しかし、働いたのは、私ではなく、私と共にある神の恵みなのです。」（10節）と述べています。「それは私ではない」とはどういう意味だと思いますか？

分かち合い

話し合い　その１：
武牧師は、パウロの能力を野球界のレジェンド、長嶋茂雄のグローブに例えています。グローブが選手を特別な存在にするのではなく、選手自身がグローブを特別な存在にしているのです。このたとえ話は、10節の「神の恵みによって、今の私があるのです。」という言葉の意味をどのように理解する助けとなるでしょうか。（ガラテヤ人への手紙2章20節も参照）...生きているのは、もはや私ではありません。キリストが私の内に生きておられるのです。）

話し合い　その２：
一生懸命に「熱心に働き」ながらも、なお「それを成し遂げたのは自分ではなく、神の恵みです」と告白することは、どのようにして可能なのでしょうか？また、私たちの救いの根拠が、高ぶりにつながる自分の「行い」になってしまわないように、どうすれば注意できるのでしょうか？ そして、どうすれば謙虚に、救いの根拠をキリストの「十字架の御業（みわざ）」に焦点を置き続けることができるのでしょうか？

具体的な祈りの課題を分かち合い、互いに仕え合いましょう。